

府政だより (2019年11月号)

・特集記事を新聞折り込みにて府内全戸配付[260万部]

※掲載期間: 2019年11月1日

“そのとき”が来たら考えられない だから今、人生会議

人生会議とは
希望する医療やケアについて、前もって話し合い、家族や医師などと共有しておくことです。

- ・命の危険が迫った状態になると、約70%の人が、医療やケアなどを自分で決めたり、望み通りに伝えたりすることができなくなると言われています。
- ・“そのとき”に備えて、前もって望む医療・ケアに対する希望を家族や医師に伝えておくことが重要です。

どんなことを考えたいの？

- ◆ どのような治療・ケアを受けたいか
例えば… ・病院と違って一日でも長く生きたい。 ・延命につながるだけの処置は避けたい。 など
- ◆ どのような所で療養したいか
例えば… ・家族やヘルパーなどの手を借りながら、できるだけ住み慣れた自宅で生活したい。 ・介護や施設で療養したい。 など

どうやって話し合い、共有したいの？

Step 1 治療する際に、大切にしたいことを **考え** みましょう

Step 2 もしものとき、あなたの思いを **伝え** てください。あなたの思いを **共有** しましょう

Step 3 かかりつけ医に **質問** してみましょう

Step 4 希望する医療やケアについて **話し合** いましょう

Step 5 **おさ** まりましょう

病気になるっても住み慣れた環境で過ごしたい
在宅医療を望むあなたに

在宅医療のイメージ

- ① 医師や看護師が自宅まで来て診察や処置を行います。
- ② 医師や看護師が自宅まで来て診察や処置を行います。
- ③ 必要な検査や処置を行います。

④ 国の調査によると、約70%の人が自宅での医療を希望しているにも関わらず、実際に在宅で亡くなった人は約15%しかいません。

⑤ 在宅医療は年齢や病状による制限はなく、適応が厳格であれば誰でも受けられます。

⑥ かかりつけ医、病院担当医、地域包括支援センター、ケアマネジャー等に相談してみましょう。

※1 在宅医療は平均1年1〜2回のペースで行われます。 医療費は国庫の補助に基づき行われ、公費負担の割合が異なります。

この記事のお願いはこちら 府民啓発課企画課 ☎06(6944)6025 大阪府 人生会議 啓発

毎日新聞 (2019年11月12日朝刊) 抜粋

孤独死1100人 8割男性 大阪市・2017年 地域と関係薄く

2017年に大阪市内で発見された孤独死は1101人に上り、うち8割に相当する871人が1人暮らしの男性だったことが大阪府監察医事務所による初の実態調査で明らかになった。死後1週間以上経過してから住宅の管理人に発見されるケースも多く、同事務所は「男性は女性より地域とのつながりが薄いためと考えられる。地域に参画しやすくする仕組みが必要だ」と指摘している。

大阪市内の孤独死の男女比

	男性	女性
死後4日以上 1週間以内	74.7% (272人)	25.3% (92人)
1週間超 1カ月以内	84.2% (438人)	15.8% (82人)
1カ月超	83.4% (161人)	16.6% (32人)

※独居の場合。2017年

(中略)

今回の調査では、自宅で見えられ、死亡から発見まで4日以上経過したケースを孤独死と定義。17年に扱った4551人のうち、1101人を孤独死と判断した。このうち905人は死亡から1カ月以内に発見されたが、1カ月を超えた人も196人に上り、最長で1年4カ月後に発見された人もいたという。事件性が疑われない限り、孤独死については警察も発表せず、報道されるケースはまれだが、大阪市内だけで1日あたり3人の孤独死が見つかっている計算になる。

府の担当者は実態調査の実施について、「孤独死の現状を発信することで、市町村の施策を充実させる機会になれば」と話し、今後も継続する方針だ。「自分や家族のことに置き換えて考えてもらい、近くに一人暮らしの高齢者がいたら声掛けしてほしい」と呼び掛けている。